

ふるさとの歴史・文化の再発見と創造を考える

ふるさと「風」

第二十三号（二〇〇八年四月）

風に吹かれて（ ） 白井啓治

『草取りとの婆さんに』

道を尋ねたら横をむかれた』

石岡に来てこんな一行文を呟いてからもう六年ぐらいになる。しかし、未だにこの感覚は抜けない。何をしても直ぐに横をむかれるし、そのくせ此方が無視してやると影でコソコソと囁いている。勝手に閉塞したい風土なんだから、何も構わず放っておけと思つが、住んでいる以上何らかの関わりを持たなければならぬ。実に面倒なことと思つが、ある程度は止むを得ないことではあろう。ところが最近、そんな風に思っている私自身が、この嫌な風土に染まってしまったかと自覚させられる出来事に出くわし、些か面食らってしまった。

三月半ばのことであった。友人のオカリナ演奏会に顔を出すため、潮来に出かけたときのことである。演奏会が終り、潮来の道の駅に寄つてお茶でもしようということになって、初めて潮来の道の駅に行ったのであった。大層な人出で賑わっている道の駅であった。

その道の駅で知り合ったお店の人から、「私石岡に別荘を持っているんですよ」と言われたのであった。思わず「石岡にですか？」と聞き

直してしまつた。実際、石岡に別荘と言われても、果してそんなところがあったらどうかと、石岡と別荘のイメージが繋がらなかつたのである。しかし、しばらく話しているうちに合点がいった。その方は、旧八郷の山間にログハウスの別荘を建てたのだという。

ギター文化館の話をしていて、その方は本当はギター文化館のある柴間の近くに建てたかったのだけれど、土地が手に入らなかつたのだとか仰られていた。

石岡に別荘を建てたと言われた時「？」と思つたのは、道を尋ねられて横をむく婆さんと同じである。私は、旧八郷地区と言われてやつと納得した自分が恥ずかしくなつた。

しかし、旧住民達が石岡だ八郷だと線引きしたり、歴史自慢をしたりしようが、新しく石岡を認識していく人たちは、合併の終わった今の石岡なのだ。新しく石岡を認識してくれる人たちには、別荘を構えたくなる自然の豊で、穏やかな気候の常世の地なのである。

中心市街地活性化に関するアンケートと称するものが無作為抽出とかで届いた。しかし、中身の無い、余りにお粗末なアンケートであった。はじめに予算を立てて、それを正当化するような活性化策と称する内容なのである。本当に歴

史文化として後世に残すべきものの検証もなされず、町興しを成功させた川越市などを横目に涎を流しての一部の者達が考える中心市街地活性化など、上手く行くはずもないし、妙案など生まれるはずもない。

しかし、他国で耳にした「私、石岡に別荘を持っているんですよ」という誇らしげな言葉には希望があった。優れた種を残していくためには、新しい血を入れる必要がある。新しい血を拒んで種の繁栄はないのは、何も生物学の話だけではないのだ。

石岡といえば、お祭りの町だと誰しもが疑うことなく言うであろう、というのは三年前までのことである。石岡のお祭りに歴史的な文化価値を認めようとする人達の多くは、石岡のお祭りを歴史的に検証しようとしないう人たちはばかりであったといえよう。

石岡のお祭りは、関東三大祭りと言語合わせした百年前の「よさこいソーラン」なのだ。最初に石岡祭りを企画し、成功に導いてきた人たちの情熱には大きな敬意を払いたい。何も無いところから、何かを企画し、それを一大文化行事にまで押し上げていく努力たるや、尋常なものではない。先達者の偉大さに敬意を払うのみである。

ところが僅か百年後の現代はどうだ。百年前の偉大な先達者たちの検証すらできないで、文化行事を行なう振りをして、文化行事を壊しているに過ぎないような有様である。特に、平成の世になってからの文化的荒廃も酷いのではな

いかと思う。

今の石岡市を豊かな歴史文化の里としての将来を考えるのであれば、常世の国と称せられた太古以来のこの地を、些細な線引きを消して、確りと俯瞰してみる必要があるであろう。常世の国を俯瞰してみることで、常世の国の暮らしの意義が見えてくるであろう。

『草取りとの婆さんに

道を尋ねたら横をむかれた』

危ない危ない。私も、草取りの爺さんになるところであった。

補聴器専門店

いしおか補聴器

補聴器は、聞こえれば良いというものではありません。医師の正しい診断と、補聴器専門店としてのスキルが大切です。合わないメガネで目を悪化させることと同じことが補聴器にも言えます。お気軽にご相談下さい。

石岡市石岡 2 1 5 8 6

電話 0 2 9 9 - 2 4 - 3 8 8 1

バス運行の復活を

兼平ちえこ

登録有形文化財久松商店にある喫茶カフェ・キーボーさんでの事でした。東京から電車で行った六十歳半ばぐらいの方から、
「石岡は歴史のある街と聞きましたが、展示されている所は近くにありませんか？」
とお声をかけて頂きました。

「はい、ここから徒歩五分位の所に、民俗資料館があります。今日は生憎木曜日で、閉館しております。他に風土記の丘という公園に埋蔵文化財の展示室、古代家屋復元広場がありますが、今の時間では交通手段が不便で……。わざわざ水戸からお戻りの途中に、お立ち寄り頂きましたのに、申し訳ないことだと思います」
このように対応したのですが、本当にお気の毒に思いました。

石岡小学校敷地内に建設された民俗資料館は、昨年の四月から金、土、日、祭日の開館となりました。同校敷地内は、古代には常陸国の国府が置かれ、昨年三月の発掘調査により最終的に国衙の跡として確認されました。

中世には府中城が築造され、その土塁が残っています。そして、徳川時代には府中松平藩の陣屋があり、現在もその面影を残す陣屋門が今年で百七十年目の命を誇っています。

このように多くの歴史を残すこの地に、遠く県外からも大勢の方たちが訪れて下さいます。しかし、残念なことです。昨年四月から、埋蔵文化財の展示室、家屋復元広場のある風土

記の丘行きの巡回バスも廃止され、石岡駅から観光、歴史の探訪等にお越しいただいた方々にご不便を強いております。

歴史ボランティアで、風土記の丘案内当番に出かけたとき良くこんな話を聞かれます。

「来るときは村上から歩いてきたんですが、帰りはどうしたら良いですか？」

「など等。ガイドをしている皆さんの間でこの一年間に切実に感じた問題の一つです。」

石岡駅の観光案内ではこんなことがありました。水戸から電車であらうしゃった男の方「チラシを見て、ダチヨウ王国に行きたいのだが」と案内を求めてきました。それで、今は交通手段がなくなってしまう、タクシーで行く方法しかなかった、とお話しますと「市の観光案内に載せておいてタクシーでは何事か」と大層に憤慨。その気迫に押されたわけではありませんが、思わず私の車で、とダチヨウ王国まで送り申し上げました。

石岡駅を出発点として、国分寺と国分尼寺の跡、石岡のおまつりの常陸国総社宮とこの近辺には由緒ある神社仏閣が沢山あります。それにちなみ、菓子店、花のあるお店が多く感じられます。そして昭和レトロの登録有形文化財。各店先から奥に入らせてもらいますと、蔵の多いことにおどきます。

駅から東方面には、高浜地区と舟塚山古墳群地域。そして、石器、縄文、弥生時代の面影を残し、歴史的財産を有意義に活用し、学習・ス

ポーツなどの心の触れ合う施設、風土記の丘。これらの見所を土・日・祭日のウオーキングコースとして、また乗り物が走って行けば、やがては駅を中心とした街中は活性化に繋がると思っています。

特に、今、歴史案内をさせて頂いている者として、風土記の丘への乗り物を土・日だけでも運行してもらいたいものと思います。現在活躍している乗り合いタクシー位の大きさと良いのではないのでしょうか。駅からのお客様も大切に、優しくお迎えしたいと願うばかりです。

「石岡駅より、若松町 東京電力 交差点を通り越し、次の信号を左に折れ(右は柏原池へ)、風土記の丘のために作られたという広い道路をひたすら風土記の丘へ。そして、ふるさと農道に入り、畜産センターを左にしながら右カーブを走る。まもなく右側は泰寧寺、左側には小高い富士山を前に悠々とそびえ立つ筑波山。この雄大な景色も名勝の一つになりそう。この景色を保ちながら五分位でフラワーパークに到着です。電車を利用してのお客様に、まずこのようなコースで土・日・祭日のバスのおもてなし」と、今こんな小さな足のおもてなしを考えてみました。

石岡市役所さま
石岡商工会議所さま

走る走る小型バス
名付けて古都・いしおか号

ちえこ

ギター文化館

2008 CONCERT SERIES

The 15th anniversary

- 4月13日 荘村清志
ギターリサイタル
- 4月27日 烏力亜娜 古箏の調べ
- 5月24日 中林淳真 ギターリサイタル
- 5月25日 及川恒平/野沢享司/SONOROSA
- 6月 8日 アリエール・アッセンボーン
歌とギターのコンサート
- 6月22日 高橋竹童 津軽三味線のひびき
- 7月 6日 吉川二郎 フラメンコ・コンサート
- 7月20日 SONOROSA ブラジリアン
ミュージック

ギター文化館も開設して今年で15年になります。
魅力タップリの大型企画で皆様のご来場をお待ちいたしております。

0299 - 46 - 2457 FAX0299 - 46 - 2628

紅天女

小林幸枝

てっぺんの風景について、紅天女のイメージを描いてみたのです。

三月二十八日、舞イメージの最後の構築のために、馬滝に出かけた。今回は、滝の水がなくなるまでつぺんまで登ってみることにしていた。それまで私は、何度か馬滝を訪れながら、物語「馬滝」の内容とは別にして、私の舞を構築する基本イメージを紅天女で行きたいと考え、紅天女を自分の心として舞の創造を行ってきた。そして前夜、私はもう一度馬滝の全体と、

ー滝に沿って急激に立ち上っている山道をドンドン登っていくと滝の水が切れた先に、紅梅の咲き乱れる小さな平地が現れる。紅梅の嶺いやそうではない、紅梅が咲き乱れているのに、桃の花が咲き乱れるような優しさと暖かさが吹き溜まっている。雑木林を抜けた先にある、ほんの小さな平地なのだけれど、そこには暖かく

ふつくらとピンクの光りと紅梅の香りを充滿させて、紅天女が私を手招いていてくれる。

私は、紅天女がかき鳴らす豎琴の風に乗って、現代人の忘れかけようとしていた殺伐しない心の言葉を、馬滝の風になって舞った。私自身も、風景も全てが紅天女の色に染まって。

馬滝のてっぺんにある紅天女の小さな里。それは私たちが決して忘れてはいけない、捨ててはいけない人間として生きるための心としての風景の里なのです。――

翌日、雨が降るかもしれないということで、早めに馬滝に出かけた。馬滝は、地元のボランティアの人たちの手で、滝の流れも、両脇の小さな山道も落葉が掃かれ、まるで私たちをおもてなししてくれているように、化粧されて待っていてくれました。

期待に胸膨らませ、滝の水の終わるてっぺんにまで登りついたとき、軽い失望を感じた。近藤さんの台本に書かれているように、何にもないタダの雑木の林になっていて、小さな、本当に小さな広場になっていました。

馬滝も、綺麗に落葉が掃かれていた所為か、近藤さんがイメージした以上にのっぺらぼうに思ってしまった。

私がちよっとしよげていたら、「この馬滝を、幻滝と呼ばれているように、美しく幻想的な滝にするのは、あなたが、自分のふるさとをどれだけ美しく、素晴らしい国だと思つか、その心にかかっている。君の心が醜いと、ふるさとの

風景も醜く、みすばらしい風景になるよ」と話されました。

私たちは、一人一人が自分の力で、自分が大切と思うものに対して精一杯の力を注ぎ込むという勇氣を持たないと、そこに明日の夢を考え、描く事は出来ない、改めて教えて頂きました。

四月公演で、今までにない綺麗な小林幸枝を作り、美しい舞を創造し披露したいと思っています。

嫉妬に狂う般若の面

菅原茂美

『能楽』の事など私は一〇〇%音痴。しかし、調べてみると、般若の面は、嫉妬の余り、角まで生えた『鬼女』の形相を現したものだ。従って般若の面から角を取れば、『顰面(しかみづら)』であり、男鬼の面となる。

さて、男と女で、どちらが嫉妬深いかと問われたら、あなたはどうか答えますか？ ジェラシーといえば、ロマンチックな感もあるが、嫉妬という字は、やけに女へんで固められ、陰湿な感じが強いけれど……

歴史上、男の嫉妬、女の嫉妬に絡む大きな事件は幾つもあった。学問の神様・菅原道真は、藤原時平の讒言(ざんげん)により大宰府に流された。平家物語には、『頼朝、郎党共が讒言によつて義経を討たんと仕候』とある。又、ギリシヤ神話では、北斗七星は、主神ゼウスの寵愛を受けた妖精に嫉妬したお后(おきさき)ヘラが、

妖精を熊に変え、休みなく天空を駆け巡らせているのだという。

ところで私はこの上もない単細胞。わびさび・物の哀れ、深遠な文学や芸術など、とんと無縁。科学バカといわれても仕方がない。愚かにも人間の機微な心さえも、大脳において、どのような化学反応が起これば、恋心^①が生まれ、どんな電気反応なら『憎しみ』になるのか？ 物理・化学で説明できないのか、いつも考えている。

そこで『嫉妬の深層心理』を、動物生態学などを基礎に、生物学的に分析してみたい。

人間を含めた全ての生物は、己のDNAの支配下にある。DNAという単純な物質は、あたかも生存・繁殖への強い『意思』が有るかのようには振る舞う。故に、己のDNAのコピーを、永劫に子孫へ伝えようとするのが、生存の根本原理とするなら、妻にとって自分が生んだ子は、間違いなく己のDNAを半分受け継いでいる。しかし夫にとって、多くの動物の例(親子のDNA鑑定)を見るまでもなく、妻が生んだ子は必ずしも夫のDNAの半分の担っているとは限らない。ツバメ等よい例で、一つの巢の中で、番(つがい)の夫の子は半分にも満たず、残り(番以外)の他の雄の子(妻の浮気は証明済み)であり、それが多様性保持に貢献し、いずれかの子が生き残り、数千^②の渡りにも耐える、強力な子孫を確実に残す結果となる。

又、『鴛鴦えんおこの契り』などと、いつも二羽一緒にいる「おしどり」の夫婦愛がもて囃

されるが、あれは夫が、妻の浮気を防ぐため、陰湿に付き纏っているだけという。故に妻と他の雄との子を、我が子として育てたなら、夫にとって己のコピーを残すという大前提は崩れてしまう。そうしなければ夫の被害は甚大である。故に生物学上、雄の嫉妬心は雌の何倍も強いと説明されている。雄同士が血みどろの戦いをする根拠もそこにある。

しかし今の人間社会において、男にそのような実感が薄いと言う事は、長年の社会規範とか、宗教との縛りとかにより、よくよく野生を忘れて、すっかり腑抜けになってしまったか、それとも人類滅亡への前兆なのか？

さてDNAの戦略は、妻にとって、夫であるうが密男(まおとこ)であるうが、とにかく己のコピーを増やそうとするのが原則であり、薄っぺらな社会道徳など、高々一万年の文明が築いた絵空事に過ぎない。七百万年の人類の歴史において(五百万年との説もあるが)、一万年はほんの瞬時に過ぎず、今の人類は生き残れるかどうかの試行錯誤の真つ最中とも言えよう。

また、人類は生物界において、決して特別の存在ではない。多くの偶然が積み重なって、たまたま今の状態にあると考えるべきである。六千五百万年前、小惑星(直径一〇キ)がこの地球に衝突しなかったなら、恐竜は滅びることはなかった。そうしなければネズミほどの大きさの哺乳類の先祖は、恐竜への影に怯えて細々と生き、決して霊長類 人類へと進化はできなかつたであらう。

地球は、赤道付近の地温がマイナス五〇度の全球凍結時代や、両極がプラス二五度の超温暖化時代を何遍も繰り返して、全生物の九六%も絶滅した過去を持つ。このように多くの偶然の積み重ねで、今日の人類は生き残った。決して人類の進化のための特別の『王道』が用意されていたわけではない。故に人類だけは滅亡など有り得ないと思うのは甘すぎる。どのような偶発事故で人類滅亡が起こるかも知れない。多くの物証から、平均八千五百万年毎に、全生物の九割り方、滅亡する事件が起きている。その主な原因は、前述の他に、スーパーブルーム(膨大な量のマグマの噴出)、スーパーアノキシア(大気中の酸素濃度が殆どゼロ)、メタンハイドレート(ガスや硫化水素の大噴出など)、かつて何度も起きており、『水の惑星・生物の楽園』などは、表向きの笑顔で、地球は凶暴に変貌する怪物でもあることを忘れてはいけない。

それ故、無謀にも人為的な愚行を積み重ね、オゾンホールを拡大させたり、温暖化により環境破壊を招くなど論外である。経済成長至上主義や同時多発工ゴに、宗教も絡んで、ケンカばかりしている今の人類に、一体『智恵』というものがあるといえるのか。嘆かわしい限りである。今の地球は『未来人からの預かり物』ともいわれる所以を、しっかりと心に止めておくべきである。

さて嫉妬心の根源として、進化には、ちよつとやそつとの環境変化では、DNAを変化させない頑固さと、アツと驚く変身ぶりを示す両面

性がある。大方頑固一徹タイプは滅びていく。変幻自在型は生き延びる。生命の元祖は嫌気性菌であった。それが八億年ほどして酸素という猛毒が出てくると、大方死滅する中で、チャツカリ酸素を利用する者が現れ、それが現在の大方の生物の祖先となった。しかしその祖先達の子造りは安易なものではなかった。飢餓・病気・序列・胚の致死因子・環境汚染等々。これらに打ち勝たなければ、わが子は授からない。これらの妨害要因を簡単に打破できない所に、嫉妬心が湧き出る震源地があつたのだと思う。即ち古代からDNAの存続をかけて、嫉妬心は培われて来たと言える。

さて、人間の行動は、生存競争に明け暮れている他の動物達と基本的に何ら変わらない。万物の霊長などというが、かなり癡猛で、平和愛好型とは、ほど遠い感じがする。人類は見かけ上、一夫一妻の『番い型』を形成しているが、本来チンパンジーなどと同じ『乱婚型』の動物である。よつて、近年、軟弱傾向にあるといわれる男性諸君、妻が他の男との子を宿す実損を避けるために、角が生えるまで、強烈に嫉妬心を燃やせ！ 本来の野生を取戻し、実力を備え、聖人ぶつた偽善は、さらりと捨てる！ 動物の『雄』として『番い防衛』のために、命がけで闘え！(但し闘う相手は、時により己自身の邪心)そしてDNAの意思に忠実に従え！

それでこそ、女が真から惚れる男の姿といえる。
男も女も、焼餅大いにやくべし。

昭和55年8月9日の午前中に土浦・龍ヶ崎線と呼ばれる県道48号線を、点灯したパトカー先導で南下する高級車の列があった。ボンネットの前にはドイツ国旗が飾られておりドイツ大使館の一等だか二等だか(宝籤や抽選に当たることが無いから等級に疎くて忘れた…)書記官以下が分乗していたようである。

後で知ったのだが来訪者の中には有名な飛行船ツエッペリン号の乗組員だった人物と飛行船を造ったツエッペリン伯爵の令嬢(とは言ってもかなりの高齢?)が居たらしい。行き先は土浦市と阿見町とが接する右羽地区の陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地(武器補給処、航空学校分校、航空自衛隊高射隊など 当時)である。

其処は旧海軍第一航空廠の跡であり、正門前の道路から東側の飛行場地区も海軍時代からの飛行場の一部だった。予科練で有名な阿見町の土浦海軍航空隊から荒川沖に至る広大な敷地には航空廠や霞ヶ浦航空隊など旧海軍の施設が展開していたそうで、昭和四年の初夏には東京を目指して飛んできた世界に誇る超大型飛行船ツエッペリン号の着陸地に選ばれた。

何しろ世界一の巨大飛行船だから狭い土地には着陸出来ないし、短期間でも仕舞って置く場所が要る。気象条件などもあり、その眼鏡に叶ったのは阿見原に展開する海軍基地だった。その辺りのことは平成14年に阿見町教育委員会が「阿見と予科練」そして人々のものがたり

と題して旧海軍時代の貴重な史料を集め出版されているから手に取るように分かる。石岡に居てはそういう情報は得られないが、私の好奇心を知る編集委員の方が下さって、この原稿を書くのにも参考にさせて頂いている。

ツエッペリン号の来訪は、昭和初期の日本国民に江戸時代の人々が浦賀沖で黒船を見た以上の驚きを与えたようで、交通も不便だった阿見原に数十万人の見物客が集まったといわれる。実は私の出生前のことだが両親も居住地の愛宕下(港区)からわざわざ見に来たらしい。

戦時中の、それも終戦の数日前に再版が発刊された「日本歴史年表」には昭和4年(1929)8月19日の記事で「本月七日米国『レーク・ハースト』ヲ発シテ世界一周を企テタル独逸大飛行船『ツエッペリン伯号』ハ大西洋ヲ横断シ、独逸フリードリッヒス・ハーフェンニ着シテ其第一『コース』ヲ終リ更ニ同十五日同地ヲ発シ西比利亜經由此日東京ノ上空ヲ訪問シテ無事霞ヶ浦ニ着陸シ其第二『コース』ヲ完了シ同二十九日出発地『レーク・ハースト』ニ帰着シ二十二日弱ニシテ無事最短限世界一周ノ新記録ヲ造る」とある。

ツエッペリン号は単に記録達成の目的だけで飛んで来たのでは無い。航空機が完全に実用化されていなかった当時は、大量輸送を行える空の交通機関として飛行船がクローズアップされていた。そのデモストレーションが狙いだったのであろう。皮肉なことではあるが、ツエッペリン号が東京に来る五日ほど前には飛行訓練で

「ふるさと風の会」会員募集中!!

ふるさと風の会では、ふるさとの歴史・文化の再発見と創造を考える仲間を募集しております。自分達の住む国の暮らしと文化を真面目に表現し、ふるさと自慢をしたいと考える方々の、入会をお待ちしております。会の集まりは、月初に会報作りを兼ねた懇親会と月一回の勉強会。

入会に関するお問い合わせは、下記会員まで。

白井 啓治 0299-24-2063 打田 昇三 0299-22-4400
兼平 ちえこ 0299-26-7178 伊東 弓子 0299-26-1659

各務ヶ原飛行場へ向かうために立川飛行場を飛び立つた日本陸軍の重爆撃機が離陸直後に墜落し八名の犠牲者を出している。

ドイツ製大型飛行船の安全飛行PRに一役も二役も買わされた阿見原の海軍航空隊基地には実に都合良く飛行船用の巨大な格納庫があった。「押収格納庫」とか「欧州格納庫」と呼ばれており名称のとおり「欧州(ドイツ)から押収」したものである。「阿見と予科練…」によれば全長240m、高さ39m、間口約65m、面積約15700㎡、二枚ある入口の扉は一枚の面積が約990㎡で重量が約40屯とある。

この馬鹿でかい格納庫は、第一次世界大戦で一応は戦勝国となった日本が敗戦国のドイツから賠償として貰い莫大な費用をかけてドイツ国内から解体輸送してきたというから、昔も今も「偉いと言われる馬鹿」のすることは国民不在の感覚で何を考えて居るのか分からない。

「ふるさと“風”」の発行者である白井さんは飛行船に乗ったことがあるそうで「実に快適な乗り物」と言っていた。科学が進歩した現在では安全な化学物質が開発されて無闇には爆発しないようであるが、昔の飛行船はガスボンベを抱えていたようなものだから機嫌が悪いと直ぐに空中爆発を起こした。日本の軍隊でも一応は飛行船部隊を創設したらしいが十年足らずで廃止され飛行機の時代になったのである。

結局、ドイツから遙々と移住してきた大格納庫は、かつての母国のツエッペリン号を迎え入れたのが晴れの舞台になった。勿論、飛行機の

格納庫としても使われ、日本海軍の誇る「ゼロ戦」が格納庫から飛び出すことも出来たようだが「でっかいことは良いことだ!」という訳にはいかず、第二次世界大戦で日本が負けだすと敵の空襲の目標にされる心配が生じてきた。

鉄の塊のようなツエッペリン格納庫は目方で評価され、解体されてどこかへ連れてゆかれた。その跡は多くが民有地となり、官有地としては一部、滑走路周辺の巡回道路脇が空き地で「夏草やつわものどもが夢の跡」と誰かが詠み直しても良い状態だったが、かつてツエッペリン飛行船を係留した大きなコンクリートブロックが一個だけ、半分が土中に埋まった状態で残っていた。大格納庫跡の北西角に当る場所である。

昭和50年頃、陸上自衛隊武器補給処長(兼霞ヶ浦駐屯地司令)として着任した将官がツエッペリン飛行船と巨大格納庫のことを知り、その場所を整備し「日独友好濫觴之地(にちどくゆうこうらんしょうのち)」の記念碑を立てた。冒頭に述べたドイツ大使館「一行はその記念碑を見にきたのである。」

昭和55年8月9日には土浦市で「ツエッペリン飛来五十周年記念式典」が行われたらしい。地元では大ニュースかも知れないが、興味の無い私は知らなかったし「ツエッペリン飛行船飛来が日独友好」と言われても、第一次世界大戦の経緯を考えると簡単に「そうですか」と納得しがたい点がある。記念碑にしても手造りだから余計な作業をさせられた記憶しかない。

個人的な恨みは兎も角、式典に招かれて土浦

まで来たドイツ人たちは序でに「記念碑が見たい」と言ったのか、日本人の誰かがお節介で教えたのか、土浦市役所から「ドイツ大使館員が記念碑を見に行く」という連絡があった。運悪く、その電話を受けたのは私である。

伝えられた到着予定時間は一時間後である。対外的なことは「広報」の担当だし「警備」にも関わりがあるので、関係先に知らせてから私は念のために正門から飛行場入口の付近を見回りに行った。門の外は公道でゴミが捨てられていることもある。当時は荒川沖駅から専用鉄道の引き込み線が来ていてポイ捨てはし易い。

警衛所に寄って情報が伝わったことを確認してから県道を歩いてみると、何と前方にパトカーのライトが見えるではないか。曲がり角で後続の車も見える。知らされた時間よりも三十分以上早い。未だ担当者は正門前に来ていない。

警衛所まで駆け戻ると衛兵も気づいて「どうしましょうか?」と質問する。「俺のほつが聞きたくらいだ」とも言えず「広報と警備に知らせろ!」と指示してから考えた。私は「総務」担当の木っ端隊員だから飛行場出入り許可の権限などは無いけれども、ドイツ国旗を掲げた車を県道に停めて置くわけにはいかない。

総務の仕事は役割が有って無いようなもの、老兵にはお叱りを受けても屁理屈で相手構わず反論する変な覚悟がある。越権行為を承知で車を飛行場内に誘導して先頭のパトカーを止め「案内の者が直ぐ行きますから取り敢えず現場まで移動してください」と、記念碑のある東南

の位置を教えた。私の正体を知らないパトカーのお巡りさんは指示に従ってくれた。

ドイツ製の巨大な格納庫の跡とは言っても、それこそ何も無い原野とお粗末な友好記念碑を見てドイツ大使館員やツエツペリンの関係者が満足したかどうかは知らないが、この些細なこととの裏には明治、大正、昭和の三代にかけて激動する世界の中で日本とドイツという二つの国が関わった複雑な歴史がある。

日本もドイツも第二次世界大戦では数少ない敗戦国になった。日本は資源が無いのに世界中を敵に回したのだから、どのように言い訳しようと最初から勝ち目が無い。第一次世界大戦はヨーロッパ諸民族の紛争が切っ掛けで日本には関係が無かったが、なぜか戦勝国に入っている。既に述べたように欧州（押収）格納庫は、多くの犠牲を払った結果の戦利品になる。

ドイツは第一次世界大戦でベルギー、フランス、イギリス、イタリア、ソビエト（ロシア）、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、ギリシア、からアメリカ、日本まで敵にして負けなければ、敗戦の教訓を逆に生かして軍事面に力を注ぎナチスの台頭もあつて三十年間で世界制覇を目論む国になっていた。

ナチス党を基盤にドイツをファシズム国家にしたヒトラーは第一次世界大戦に三度従軍して死線を越え二度負傷している。ヒトラーの生涯、特にドイツ兵士となつてからの生き様を著述した図書は多く、それらに記録された「ヒトラーの情念」と言つか「強力な国家造り」に突

つ走つたエネルギーは凄まじいものが感じられる。

国境地帯に生まれ、ドイツ人ながらオーストリア国籍しか与えられなかったヒトラーは人一倍の「愛国心」を持つて育つた。既に十五歳で熱狂的なドイツ民族主義者だつたと言われる。第一次世界大戦開幕時、ヒトラーは徴兵検査を受けたが虚弱体質で不合格となり、時の皇帝に直訴して入隊を許されたとか、普通ではない。

新兵教育もそこに、送り込まれたのが大戦屈指の激戦となつたベルギーのイーブル戦場である。この戦闘ではイギリス軍の毒ガスと集中砲火でヒトラーの連隊は壊滅した。生き残りが送られたのがフランス中北部のソムム戦線で、ここもイギリスが始めて戦車を使用した激戦地。ドイツ軍の死傷者四十五万人といわれ、ヒトラーも足に負傷して病院に収容されたが、程なく復帰して今度は毒ガスで目をやられた。

ギター文化館発：ことば座第七回定期公演

「常世の国の恋物語百」

4月20日(日曜日) 13:30会場 14:00開演

(第7回公演では、園部川をモチーフとした物語2話を予定)

第13話「潮の道余話」

大洋村の汲上浜から府中まで塩を運んだ道を潮の道と呼ばれていた。中間地点の倉敷には塩蔵があり、近くには潮宮神社が祀られている。その御神木が語り聞かせてくれた園部川に命を落とした悲しい恋物語。

第14話「馬滝(のっぺらぼうの涙)」

園部川の源流の一つに馬滝(幻滝とも呼ばれている)がある。短い落差の滝が山頂へ延々と連なっている変化に富んだ幽玄な滝である。しかし、この馬滝をハンティングに出かけた脚本家は、何故か「のっぺらぼう」と心象した。のっぺらぼうに小林幸枝の舞をイメージして書下ろした、緑の涙の恋物語。

前売チケットのご予約は、ギター文化館(0299-46-2457)へ。

ことば座事務局 〒315-0013 茨城県石岡市府中5-1-35
0299-24-2063 Fax 0299-23-0150

終戦を祖国の病院で迎えたヒトラーはドイツの敗北と自分たちの犠牲が無に帰したことを知る。敗戦の原因で最大のものは共産主義者の扇動による厭戦反戦運動、ストライキなどに加えて資本家たちの墮落である。その背後には戦争を金儲けの場にするユダヤ人の存在があった。ナチスドイツの「ユダヤ人迫害」は、第一次世界大戦による数百万人の犠牲者の亡霊を背負う的の外れたヒトラーの報復と考えられる。

ところで国防組織の幹部（将校）は現在でも習っていると思われる「クラウゼウィッツの戦争論」という本がある。ナポレオンなどと戦った経験のあるプロシア（ドイツの前身）の陸軍大学校長などを歴任した人物が書いた「戦争及び統帥に関する遺書」から編集されたもので、とかく理性を失い勝ちな「戦争」を理論的に分析した本だから、平和な時代にこそ全国民が必読すべきだと私は思っているが：

その「戦争論」には「…戦争の基本的要素とは、二者間の闘争即ち決闘である。（中略）…されば、戦争とは敵を屈服せしめて自分の意思を実現せんが為に使われる暴力行為である（中略）…故に戦争に於ては交戦両者は各敵の意志を屈服せしむるため無限的努力を傾倒する…」と書かれている。戦争は理屈抜きの野蛮なものであることをまず認識しなければならぬ。クラウゼウィッツはさらに続けて「…共同社会の戦争、即ち全国民間の戦争は必ず政治上の状態に胚胎し、政治的動機によって喚起せられる。故に戦争は一の政治的行為であり、又、国

家意志遂行の政治的一手段である…」とも述べている。そうなるに戦争が起こる原因は政治家の質の問題に関係してくる。国会議員をミーちゃんハーちゃんの感覚で選ばせられる現在の選挙制度は国を滅ぼす最たる原因になるのでは：

第一次世界大戦に話を戻すと、日本の歴史について江戸時代から明治時代までのことは多くの国民が興味を持っている。これが大正時代となると「関東大震災」「大正デモクラシー」と国家権力による弾圧」「軍国主義の台頭と大陸進出」などは知られているが、第一次世界大戦は主な戦場がヨーロッパだった関係もあって、日本がどのように関わっていたかはあまり知られていないようである。

石岡市史には西南戦争以来の地元戦没者のお名前が列記されている。日本が第一次世界大戦に参戦した大正3年8月から終戦（大正7年11月）までに亡くなった方は三百名であるが、いずれも場所が国内である。そうかと言って勝利国の日本に犠牲者が居なかった訳ではない。

そもそもヨーロッパでの戦いになぜ日本が参戦したのか？大正3年（1914）の夏、第一次世界大戦が勃発したとき、日本では8月15日に天皇の前で会議を行い、この戦争に参加すべきか否かを論議している。戦争を起こすときに当事者が口にする「止むに止まれぬ正義のための戦い」では無かったことは明白である。

日本参戦の表面上の理由は、明治35年1月30日に締結したイギリスとの「攻守同盟条約」（現在の日米安全保障条約のようなもの）に基

打田昇三歴史エッセイ

ふるさと「風にたずねて」(・ / ・)

小紙に毎月連載されている打田昇三氏の「ふるさと歴史探訪」が小冊子にまとめられて、ふるさと風の文庫として発売しております。(二冊組：1000円)

今回第 ・ が発売となりました。

小さな手作りの文庫本ですが、風の会のふるさとを思う心が一杯の本です。冊子は、ギター文化館にて販売しています。

づいて支援要請があったからとされている。

東洋に多くの植民地を抱えるイギリスは大量の消費国家であり、遙々と船舶で運び込まれる資源は多かった。一方、中国の山東半島に着目したドイツは明治33年（1900）に中国政府と冬も凍らない膠州（こうしゅう）湾の租借契約を結び、湾を抑える位置の青島（チンタオ）に要塞化した軍港を築いていた。

両国が宣戦布告をすると、青島軍港から出撃したドイツ東洋艦隊がイギリスの商船を襲う恐

れがある。本国から離れたアジアの海域を守り切るのは困難と判断したイギリス政府は日本に参戦を持ちかけてきた。日本は狐が豆腐屋の留守番を頼まれたようなもので、目の前に好物の油揚げの山がある。御前会議では一部の自重論が退けられドイツへの宣戦布告を決めた。

ところが、イギリスは参戦を勧めた後で日本の古狐に気づき、慌てて取り消しを要求してきたのだが、どうしても中国大陸侵略の足がかりが欲しい日本は聞こえない振りをして陸軍一個師団と海軍一艦隊の兵力を投入し青島を攻撃したのである。戦闘一週間、要塞は陥落したが日本軍の損害は死傷者千二百人とされる。

日本軍の青島侵攻は、それまで友好的だった中国との関係を悪化させた。防衛大学校長などを歴任された猪木正道さんは「軍国日本の興亡」という著書で排日運動が激化した中国の状況を明快に分析され、更にヨーロッパが主戦場の第一次世界大戦に、青島占領という中途半端な形で参戦した日本の「世間知らず、軍事面の絶対的立ち遅れ」を指摘されている。そのお粗末な武器で国民を第二次世界大戦に向かわせた責任は如何に言い逃れしようとも許されない。

第一次世界大戦で連合国側に加わったロシアは開戦早々にポーランドでドイツ軍への攻撃をしかけた。「タンネベルク会戦」と呼ばれる数日間の激戦でドイツ軍の機関銃が次々と攻め寄せるロシア兵を薙ぎ倒し多数の戦死者を出した。この敗戦が大きな要素となってロシア革命が起こり共産主義国家ソビエトが誕生した。

第一次世界大戦の影響で最も著しいのは経済的發展を得たアメリカの台頭とロシアの共産主義化だと言われる。休戦条約が結ばれる数ヶ月前の日本はロシア革命の影響が中国大陸に及ぶことを懸念し、欧米諸国は中国大陸に居座る日本軍に警戒しつつもウクライナなどコーカサス地方がドイツに占領されることを恐れていた。

その頃、ドイツ側に付いていたオーストリア軍の中にチエコスロバキア人の軍団があった。彼らの願いは独立である。ロシアが共産主義化してドイツが孤立するとチエコ軍団は微妙な立場に置かれ、更に革命で足元の危ないロシア政府が早々とドイツと講和したため、チエコ軍団はソビエト軍に武装解除されることとなり遂に暴動に発展した。アメリカ、イギリスなどはチエコ軍を救出するという名目でシベリアに兵を送り、日本にも出兵を要請してきた。

物事の本質を見抜けない日本の軍部は、この機会に大陸へ進出しようとする野望をあからさまにして合計七万二千の将兵をシベリアに送り込んだのである。これに対して言い出しつぺのアメリカは七千、イギリス・フランスで五千八百の兵しか出していない。しかも素早く撤退してしまった。軍首脳部の野心から撤退の機会を失った日本軍（民間人を含む）はソビエトのゲリラ化した不正規部隊に狙われ出した。

大正9年（1920）5月25日、間宮海峡を隔てて樺太の対岸にある黒竜江沿いの都市ニコライエフスクで、邦人七百余人が過激な革命指導者ボルシエビキ傘下のゲリラ部隊に惨殺さ

れる「尼港事件」が起こる。日露双方は共に相手国の残虐非道を主張したが日本軍内部にも「何のための出兵か」と疑問視する声も生じたという。こうした明らかな失敗にも反省しない軍主体の日本政府は大陸に固執し、昭和14年には関東軍が外モンゴルのノモンハンでソビエト軍と衝突して多大の損害を受けたのである。

戦車隊の見習士官としてノモンハン事件の五年後に満州へ赴任された経験を持つ司馬遼太郎さんは、アメリカの戦史学者と対談されてソビエト戦車隊の充実した装備に対して、日本軍の戦車実践の役に立たないものであったことを述べられている。そして「当時の日本陸軍の指導者は頭が悪く国家安全への感覚がなかった」ことを指摘された。尤も現代でさえ陸海空軍のトップに呆け官僚が長いこと居て仕事にゴルフをしていた訳だから、あまり威張れないが：

司馬遼太郎さんのお説では「ドイツ人はコップの中で思考が旋回していてあまり脇を見ない」のだそうで、第一次世界大戦もその辺の理由から拡大したようだし、それに「空想癖の強かった日本陸軍がドイツ式の軍制を採用していたことに滅亡の危惧を感じていた」とも述べておられる。確かにそうかも知れない。

私の上司で、現役中に米国陸軍への留学が長く世界中に友人がいた方が昭和40年代にドイツへ出かけたところ、見知らぬ女性から「日本とドイツが手を組まないと言われたらダメになるからお互いに頑張りましょう」と言われたそうまで苦笑していた。今やそのドイツはEUのリーダー

一として第一次、第二次の世界大戦に連敗した影すらも無く、名実共に世界の大国である。

日本がドイツ式の軍制を採用したのは明治中期に遡ることらしい。維新の動乱時に幕府軍はフランス式の軍隊を持ち、新政府軍は鳥羽・伏見の戦いに集結した薩長の藩兵がスタートであるからイギリス式になっていた。

徳川慶喜が水戸に謹慎した後に一橋家当時から慶喜に仕えていた家臣たちが中心になって彰義隊を結成し上野に立て籠もった。折角、江戸城を無血開城した勝海舟らが心配するのを他所に飽く迄も抵抗の姿勢を崩さない。遂に総攻撃が決まって官軍は一万六千の兵を揃えて攻め込んだが落とせない。この時に長州藩の大村益次郎が大砲を撃ち込んで彰義隊を壊滅させた。

大村は官軍の参謀で指揮官は西郷隆盛だが、全権を大村に一任していた。その大村益次郎が兵制はイギリス式より幕府が採用していたフランス式が良いとって切り替えたいらしい。当時のフランスはナポレオンの影響が大きかった。

その頃、大村と同じ長州藩の出身者で戊辰戦争に参加し、たいした功績も無かったが家柄が何かで破格の功労金を貰った男がいた。桂太郎という。当時の感覚としては珍しく、その金でプロイセン帝国へ私費留学をしたのである。

プロイセン地方は当時のドイツの辺境でありロシア革命の端緒となったタンネベルク戦場はプロイセン地方である。そこに居た小豪族が用心棒のように騎士団を呼び寄せたのが歴史の始まりで少しずつ領土を拡大し、フリードリヒ

一世や鉄血宰相と謳われたビスマルクらの努力でドイツ全土の統一に成功した国家である。

留学から帰国した桂太郎は軍籍に戻り、自分の経験からナポレオン時代の終末を予感して陸軍の兵制をフランス式からドイツ式に切り替えるように進言した。その後、日本の軍人はプロイセン・ドイツ帝国に留学するようになり、文豪・森鷗外も軍医として数年間をベルリンなどで過ごし、その経験から「舞姫」を発表した。

そして先に述べたクラウゼウィッツ將軍の著書「戦争論」を日本に持ち帰ったのも鷗外である。「日本陸軍史」などによれば、軍制をドイツ式に変えた際に陸軍大学校教官としてドイツ参謀本部からメツケルという少佐が来て三年間に亘り將來の陸軍を動かす秀才軍人を教育した。メツケル少佐を選んだのはクラウゼウィッツ將軍の後継者だったらしいから、メツケル少佐も優秀な軍人（教官）だったのであろう。

しかし時代は明治の十年代である。国際的には朝鮮及び清国（中国）との緊張関係が続いていて指導者の養成は急務であるが、陸軍大学校の学生は倒幕戦争の尾を引いている。それが軍人勅諭により天皇に統率される軍隊の中核とされてしまった。本来は、陸軍大学校の学生に要求されるものと言えば教養に裏打ちされた軍人としての「資質」や世界的視野に立つ「戦略思想」であろうけれども、言葉の違いもあって昔の武士道を重んじる学生に小技の「戦術」は教えてられても「戦略」は教えられなかった。

国家の命運を握る上級軍人は、広い視野で作

戦を立てなければならぬのだが、それが出来ずに次々と国際的な戦争で強力な敵と対戦することになるのである。司馬遼太郎さんの言われた「コップの中の思考旋回」であり「空想癖の強い日本陸軍」ができてしまった。

ところで日本がドイツ式軍制を採用したことに関連して私はどうしても不思議でならない疑問があった。陸軍大学校の教官を招くというのは、此方の手の内を見せることである。国家同士が親密でなければ実現しない。日本とドイツはそれ程に親密だったのであろうか？

鎖国時代の日本はオランダに限り交易していたが幕末にはペルーの黒船以下ロシア、イギリス、フランス、デンマーク、ルーマニアが早くから開港を求めていた。ドイツ船は、水戸の徳川斉昭が幕政に参与した安政2年（1855）に始めて伊豆下田へやって来た。ペルー提督が和親条約の批准を取り付けた年である。

対日政策に立ち遅れたドイツではあるが、水戸藩と藩祖を同じくする紀州藩がドイツ式兵制を採用していたし、明治2年（1869）に日独修好通商条約が成立すると軍事面での急速な接近が図られたようである。日露戦争の際に東郷平八郎中将（当時）を連合艦隊司令長官として抜擢した山本権兵衛、日本海軍の父といわれ、首相を二度務める（は明治7年に海軍兵学寮（兵学校）を卒業してから三年ほどドイツ軍艦に乗船して実務研修を受けている。

そして桂太郎、森鷗外、田村怡与三（たむらそせいよぞう）日清戦争で大山元帥の参謀など

を務めた。進歩的感覚を持つ軍人として期待されながら早世、森鷗外と共に「戦争論」を伝えた。その留学に繋がる軍事交流が行われた。

それなのに、日本は明治35年にイギリスと攻守同盟条約を結んだから、ドイツを離れイギリスに接近したことになる。その時期は明治二十年代の後半から明治三十年代の初め、実はこの時期には日清戦争が起こっている。

「盗人にも三分の理」戦争を起こす言い分は双方それぞれに違い、どちらも「自分のほうが正しい」と主張するようだが、近年は戦争と言うよりも「一方的な侵略行為」が「正義の戦い」にされてしまうから恐ろしい。日清戦争の直接原因は「ふるさと」風、第十四号でも触れたが「江華島事件（日本軍の朝鮮出兵）」である。清国は有数の大国だったが「眠れる獅子」と呼ばれて実力を発揮出来ない。日清戦争に負けて下関条約で賠償金のほか台湾・澎湖島割譲、重慶・杭州・蘇州などの開港、そして遼東半島の割譲を日本に約束した。

これに対して異議を唱えたのは当然ながらロシアである。既に朝鮮半島に進出している日本が中国大陸まで出てくることは何としても阻止したい。そして清国が「狩場」であることを認識した西欧諸国も日本の行き過ぎを警戒した。フランスとドイツが思惑からロシアに賛同して「三国干渉」により日本は遼東半島を中国に返還し、代わりに賠償金を増額して貰った。

日本やロシアなどと同様に清国を狙っていたとされるイギリスは三国干渉に関与しなかつ

たが、その理由は「日本に地ならしをさせて後でイギリスの種を撒く」野心が有ったからと考えられている。一応は日本の味方になっていた。

第一次世界大戦で日本を誘い、直ぐに取り消しを図ったイギリスであったが、このキャンセル不能はイギリスに幸いした。日本軍は宣戦布告後、速やかに青島のドイツ軍要塞基地を集中攻撃した。イギリスは青島に居た十七隻のドイツ艦隊が壊滅することを願ったが、日本の参戦を読んだ艦隊はいち早く洋上に出てしまった。

ドイツは青島のほか太平洋のミクロネシア諸島にも軍事基地を置いていたからイギリスの東洋艦隊や輸送船団は、行方不明のドイツ艦隊に狙われることになった。太平洋ドイツ艦隊の主力は8インチ砲8門を搭載する装甲巡洋艦と軽巡洋艦、そして武装商船である。

太平洋上に点在するドイツ軍の基地に対しては日本海軍がサイパン島、ヤップ島、パラオ島などを攻撃してドイツ軍を追い払い、インド洋からオーストラリアまで進出した。これが日本海軍による第一次のイギリス支援である。日本海軍史によれば日本海軍内部には、政治的意図は別にして、日露戦争中にイギリス海軍が日本海軍に示してくれた好意と支援に「恩を返す」という気持ちがあったとされる。

第一次世界大戦には飛行機、毒ガス、火炎放射器、戦車など従来には無かった兵器が戦争に使われたことで知られる。火薬の量産化が可能になって火炮が長射程化し、かの飛行船も爆弾を積んで敵地の上空からバラ撒いた。

ドイツ軍はそれまで、あまり役には立たなかった潜水艦を改良して高性能のUボートを量産し、主として大西洋に出没させた。開戦の翌年には大西洋航路のアメリカ客船ルシタニア号がUボートの無差別攻撃を受けイルランド沖で沈んだ。犠牲者は民間人約千二百人。百数十人のアメリカ人が居たことから遂にアメリカもドイツに宣戦布告して戦場は世界に拡大した。

ドイツは見えないUボートによる海上封鎖を断行し、イギリスなどは食糧危機を招く事態となったため、日本海軍に第二次の支援を要請してきた。日本海軍は第一から第三までの特務艦隊を編成してインド洋、南支那海、南アフリカ、地中海、オーストラリア、ニューギランド方面の海上警備と船団護衛を行うことになった。

このうち地中海担当の第二特務艦隊は、佐藤皇蔵(さとうこうぞう)海軍少将が戦艦「明石」で指揮を執り駆逐艦四隻ずつの第十、第十一駆逐隊を従えて遙々と戦場の海に向かった。

大正6年4月にスエズ運河のポートサイド港に到着したこの特務艦隊は、翌年11月の戦争終結までマルタ島のイギリス海軍基地を拠点とし、主としてエジプトのアレキサンドリア港からフランスのマルセイユ港に至る間の連合国船団護衛に当たった。その回数は単独護衛だけでも三百五十回に達し、連合国艦艇との共同護衛は数知れない。ドイツUボートの攻撃から護つた艦船の数は八百隻に近く、人員は七十五万人とされている。この功績は世界中から賞賛された。大正6年6月11日、イギリス船団を護衛中

の第二特務艦隊はギリシア沖でUボートと遭遇して激戦となり二隻の駆逐艦が損害を受けた。破損箇所は応急修理してマルタ島へ戻ったが、この戦闘で「榊」艦長の上原太一少佐以下五十余名の乗員が戦死している。護衛作戦中の戦病死者は七十八名と伝えられる。作戦中は月に二十八日平均の海上輸送を行ったと言つ。艦艇の整備や乗員のことを考えると、正に第二次大戦中に日本の指導者が国民に強要した一週間が「月月火水木金金」の過酷な勤務である。

五柱の遺骨は故国に帰ったが、理由は知らず、七十三柱が現在もマルタ島に眠っている。その場所は十字軍ヨハネ騎士団ゆかりの要塞都市パレッタから入り江を挟んだ東側のカルカーラという町にある旧イギリス軍墓地だとか。マルタがイギリスから独立して墓地の管理がおろそかにされていなければ良いが。

大正10年の春から初夏にかけて当時の皇太子（昭和天皇）が軍艦・香取で欧州を訪問するときにマルタ島に寄港して慰霊祭を行ったようだが、以来、マルタ島の日本海軍軍人墓地を訪れた日本政府関係者は居たのであろうか。

日本が世界中の殆どの国を敵とした無謀な戦争に負けてからでも、既に六十有余年が過ぎた。

悪夢のような戦争さえも忘れ去られようとしている時代に、日本が戦勝国となった第一次世界大戦のことなど誰も関心を持たないかもしれないが、日本海軍第二特務艦隊の献身的な行動がドイツ潜水艦の無差別攻撃から多くの人命を救

つたことは語り継がれるべきことだと思つ。第一次と第二次と二つの大戦の間は僅かに二十数年、第一次世界大戦にドイツから賠償として受け取った「巨大格納庫」にツエッペリン飛行船が休息したのが昭和4年である。どのように接近したか、その経過は不肖にして知らないが、いつの間にか日本は敵としたドイツを味方とし同盟国だったイギリスを敵に回していた。尤も日本の対ドイツ参戦は半分冗談のようなものではなかつたらうか？「戦争論」に書かれたとおり、正に（戦争は）政治上の状態で胚胎し、政治的動機によつて喚起せられる」のである。半分冗談のような政治家が多い昨今はニュースを見る度に肝を冷やす。日本は大丈夫かと…

山も川も湖も、強いて言えば満足の樹木も無い人口数十万のマルタ島は、イギリスから独立した立派な国家ではあるが、日本に大使館も領事館も無く個人がどこかのビルを借りて観光事務などを行っている。地中海の真ん中にあるが小さい三つの島だから縮尺の大きい地図だと点にもならない。このどうでも良いような小さな島は不思議な因縁で世界平和に関わっている。

1989年11月には、日本海軍戦没者慰霊碑のあるカルカーラから10km弱離れたマルサシユロツク湾に係留された当時ソビエトの客船上で「東西冷戦の終結」が宣言された。先代ブツシユ大統領とゴルバチョフ最高会議議長の名が刻まれた記念碑が岸壁に立つという。

両巨頭会談の場所に何故マルタ島が選ばれたのかは知らないが、この地は1565年（日本

では戦国時代）に、大挙して押し寄せたオスマン帝国の軍勢をヨハネ騎士団がパレッタの要塞都市で迎え撃ち、激戦のすえにこれを撃退した場所である。この戦いの敗戦でトルコの欧州進出は阻止された。「平和は、唱えるだけでは維持できない」ことの教訓でもある。

ヨハネ騎士団は、とかく評判の悪い十字軍の中で唯一、医療活動を主任務とした騎士団であった。現在でもバチカン市国を拠点に活動は続けられているという。マルタ島がナポレオンに

我がふるさとを“風のことば絵”という
新しいスタイルの絵に表現する兼平ちえこ
兼平ちえこの足跡を辿る一行文を集大成!!

ふるさと「風のことば」

(定価500円)
ギター文化館にて販売しています。

占領されてからローマに移動したらしい。

折角、世界冷戦が終結したのに現代は新たな対立の構図があらちらに生じている。どれが正義でどれが虚偽か、双方の言い分はいずれも一方的であるから、国家として見分けるのは困難なことは分かる。なればこそ過去の日本もドイツに付いたり、イギリスに付いたりしたのである。しかし国民は事情を知らされずに戦争に巻き込まれ、多大の犠牲を強いられた。

敗戦国日本は終戦の条件に「国体の護持」とか「伝統の保全」を優先して「国民の存在」を考慮していない。強大に成り過ぎた軍閥の亡霊や特権階級の意向であつたらう。それに懲りて近代国防組織を「文民統制」で固めたのだが、政治の腐敗を反映して官僚が牛耳る墮落官庁に成り下がり、頻繁に不祥事を起こしている。

「戦争論」が指摘するように「戦争が政治的行為」であるならば、無力な国民は「戦争を回避する力を持った政治」が行われなければ平和に生きる望みはないのである。国際情勢が混沌として世界中のどこかで対立や衝突が繰り返される現代は、ツエッペリン飛行船時代のように簡単に敵か味方かを識別することが出来ない。

そういう時代こそ卓越した国際感覚を持つ者に日本の舵取りをして貰いたいのだが、悲しいかな日本の政治家は「親の跡目を継いだ」とか、

「地盤を引き継いだ」とか国定忠治の世界に逆戻りしている人物が多いから、マルタ島で活躍した日本海軍第二特務艦隊や三八ネ騎士団が自

指したような「公正無私」の行動が取れない。

第一次世界大戦後のドイツをナチズムの独裁国家にしたヒトラーも、最初から強大な力をも身につけた訳ではなかった。党員数名の小さな政党から政治運動、議会活動を通して少しずつ国民の支持を取り付けてきた。当時のドイツには既成の社会や政治に幻滅し、生活基盤から放り出された人々がいた。ヒトラーは、そういった下層階級の人たちを具体的に救済した訳ではなく、「溜まり場」を提供しただけだと言われる。

飛行船の上から見下ろした思考と、着陸して

船外に出たときの思考は違ってくる。今の日本の政治には、昭和4年の夏に阿見原に飛来したツエッペリン号の巨体を地上から見上げる国民と、船内で寛ぐ乗員乗客との感覚の差があるのではないか？ 国家という飛行船を操縦する者は、常にそのことを念頭に置くべきである。

地中海の孤島マルタにある「要塞都市、日本海軍戦没者墓地、世界冷戦終結の碑」の三つは平和を維持することの難しさを教えている。

ことば座「風の塾」絵と一行文教室

講師：兼平ちえこ・白井啓治

言葉とは、心を口に茂らせること。心とは真実。口とは真実を表現する全ての手段のこと。ふるさとの風を色に刷いて、暮らしの中の発見を一行の言葉に落とす。一切の形式を忘れ、表現の基本である「自由自在」を大切に考え、筆の遊びを楽しむ教室です。

絵の講師、兼平ちえこは、ふるさと風の会会員で、ことば座の舞台装飾を担当しています。絵や文に抱いている固定観念を取り払って、自分を楽しむことに一生懸命の教室には、何時も笑いが絶えません。

「老いても青春」を主張し、「常世の国の恋物語百」に挑戦する脚本家：白井啓治の「ちゃんと恋をしてる？」の話の下、箸が転んでも可笑しい青春を絵と言葉の中に再発見し、自分自身を褒め、楽しむ教室です。

教室の詳しいお問い合わせは下記連絡先まで。

兼平ちえこ 0299-26-7178

白井啓治 0299-24-2063

詩を詠む感性と詩を表現する感性

近藤治平

折れた煙草の吸殻で
あなたの嘘がわかるのよ
誰か良い人できたのね

山口洋子氏が作詞した流行歌のための歌詞である。実に下世話で安っぽい視線で、見事に女心を表現している。さらに感心するのは、この歌を歌っている男性歌手が、山口氏の計算どおりに男の狡さとして歌に表現している。これには、勿論、平尾昌晃という作曲家の感性があつてこそなのだが、矢張り山口洋子氏の、男性歌手を観て彼ならこの安っぽい切実な下世話話に表現するだろうと判断する感性の方に驚かされる。

今、月に一本のペースで、ことば座の小林幸枝さんに朗読舞の本を執筆している。常世の国の風景や伝説などをモチーフに百の恋物語を約束した一環である。今のところ彼女に提供する脚本は、彼女の最大の武器、特徴であるスケール感のある恋の舞表現を中軸に置いて執筆している。

恋は、人間に生まれたら誰もが体験する感情であり、その表出する行動は概ね愛すべきものである。しかし、誰もが有する感情であるが、それを美しく舞台表現として恋を創出できる人は少ない。

小林さんは聾者で、言葉を音声に表現するこ

とは出来ない。言葉は手話言語に通訳するのであるが、台本を表現する場合は、台本の言葉を通訳したのでは演劇にならない。文字に書かれた言語を手話と言う動作言語に翻訳し、さらに自分自身の動作表現としての演技を構築しなければならぬのである。

私は、小林さんに出逢った時から、彼女が台本を手話通訳したらOKを出さなかった。私は、聾者である小林さんと演劇という舞台表現はやるが、手話劇はやらぬよと最初から話していた。

小林さんの大きな特徴は、恋歌を独特のスケール感と創意で綺麗に舞うことである。この彼女の才能を更に大きく伸ばして行きたいと、最近小林さんに書く戯曲は、恋歌を中軸にして構築している。二月公演で演じた「鳴滝」も恋歌を中軸に置いて書き上げた。今回、四月公演の「馬滝」では、ストーリーを構築する前に、馬滝から創造された何篇かの詩を小林さんに渡し、舞ってみたいという詩を選択してもらい、それを基に脚本を書き上げた。

非常に不思議にまた面白く思うのは、小林さんの詩の選択である。もともと詩は自分の感性で選択しると言っているのだが、実に難しい詩を選択するのである。特に、その詩を手話に通訳したらどうにもならないぞ、といった詩を選択してくるのである。

小林さんの選択した詩の中の一節にこんな
がある。

『言葉は腐肉になってしまった。説明と

訳の道具になってしまった』

何も考えないで手話に通訳すれば別にどうという言葉ではない。しかし、これを舞台で恋の舞という表現のなかで語る言葉として手話に通訳するとしたらどうするのだろうか、と興味津々であった。勿論、小林さんに舞わせるために詠んだ詩であるから、直訳に通訳するとは考えてはいない。

台本に書き上げ、最初の読み合わせのときに「これが才能なんだよな」と思わず声をあげてしまった。詩に詠んだ言葉を自分の心の叫びにすっかり置き換えられていた。こうした才能に出くわした時、作家は、演出家は、その俳優さんを愛すること以外なくなってしまう。とてもうれしい瞬間である。

この言葉が、心の動作言語として翻訳されると、何故こうなるの？でも、この動作表現以外のことを考えてみると言われたら、才能を持たない私には、なす術がない。

Coffee & Tea Room

《ふらの》

ピザ・パスタ・アレンジ蕎麦・
蕎麦会席料理のお店です
(ギター文化館通り)

看板娘(犬)の「うらら」ちゃん
が皆さんをお迎えいたします。

営業時間 11:30~15:00
16:00~18:00

月・木曜日が定休日です。

三羽鳥珍道中

『一番寒い時に、一番寒いところに行こう』これが我ら三羽鳥の合言葉。I氏・K氏・みども。3年も続いている。ガリンコ号・オーロラ号でオホーツク海をさまよひ、北緯45度付近をほっつき歩く。

三人で211歳。高血圧・喘息・癌手術後等ハイリスク集団。旅先でぶっ倒れたら迷惑かけて済まないが、そんなときゃそんな時で、ハイそれまでヨ。ずばら・ぐうたら長寿の秘訣。悪友万歳！ バカは死ななきゃ治らない。

今年08年は1月末に知床行脚。中標津空港 バスで知床周遊 釧路空港の一泊二日。むき出しの自然に合えたのが大収穫。クリオネ・アザラシ・オジロワシ・キタキツネ・エゾシカ・丹頂の鶴。いづれも間近で見られ大満足。ヒグマのオヤジは冬眠中で合えず残念。

今回のツアーはタイなど雪のない国々の日本語学校生と我らの22人。南国の若者は雪に大はしゃぎ。阿寒湖では雪上バギー車に夢中で、出発時刻を大幅に過ぎても帰って来ない。所がラッキーにも、吹雪きで出発が遅れた釧路湿原ですっかり空が晴れ、丹頂の鶴の乱舞をじっくり堪能、大感激。バスの遅れに感謝。低価格で、北海の珍味を満喫。蟹の土産までついて。

来年も行くぞ！

菅原茂美

作家や演出家にとって、才能に出会うというのはそれほど沢山あるものではない。特に、ある作家にとっては、それは偉大な才能であるが、違う作家にとってはただの人という場合が多いのである。

脚本家にとって、どんなに素晴らしい本が書けたと思っても、自分の自信以上に優れた表現を創造してくれる俳優さんが現れなければ、落書きしゴミ箱に捨てるものと同じなのである。

小林さんに書いてある恋物語は、四月公演で十四話になる。百話までにはまだまだ時間がかかる。自分自身が果たして元気に書き上げられるだろうか、心配の方が先にたつ。しかし、先は見えてこないが楽しいことではある。

目の前に表現する感性を持った人がいるのだから、表現のための詩を、物語を語らなければならぬだろう。

工房オカリナアートJOY

母なる大地の音を自分の手で紡ぎ出してみませんか。

あなたの庭の土で...、大好きな雑木林に一滴みの土を分けていただき、自分の風の音を聞かせてみませんか。

オカリナに興味をお持ちの方、連絡をお待ちしています。

野口喜広 行方市浜2465
0299-55-4411

編集後記

花冷えて雪でも降るかな、と思っていたが、穏やかな日が続き、桜の花も予定ど通りに咲き始めました。

何か久しぶりに穏やかな春を迎えたように思いますが、何かの異変の前触れだったら嫌だなと思ってしまつのは、余計な心配なのだろうか。

編集事務局

〒315 0001

石岡市石岡13979 2

0299 242063

(白井啓治方)